

国際地域学研究科1年
高橋 孝太郎 さん
Takahashi Kotaro



[出身地]
福島県

[力をいれていること]

研究のほか、学内のサークルを通じたボランティア活動

[行ったことのある国]

フィリピン・インドネシア・ベトナム・タイ・中国・韓国
台湾・スリランカ・アラブ首長国連邦

Q 大学院に進学した理由は？

A 気づいた本当のヒーローのあり方

小さいころに憧れたヒーロー。成長するにつれ、本当のヒーローとは世界の紛争などで苦しむ子どもたちがいるこの状況を改善することではないかと思いました。開発途上国の現場に出るためには、大学院でさまざまな知見を得てから社会経験を積む必要性を感じ、その一歩を踏み出したいと考えました。

Q 大学選びのポイントは？

A 受験前の研究室訪問は必須

ポイントは国際開発の学びができることと、先生方の研究です。自分のやりたいことに近い研究をしている先生がいる大学院を選んで受験しました。受験前に興味のある先生の研究室を訪問して、考えを伝えるのは大切です。私はオンラインで複数の研究室を訪問し、比較検討してこの大学院に決めました。

Q 研究テーマは？

A ロヒンギャ難民に強い関心

今、一番関心があるのは難民問題です。特に、ミャンマーのロヒンギャの人たちは「世界で最も迫害された少数民族」とも呼ばれ、早急に解決しなければならない問題だと思いました。学部時代に思い切って歴史学科から国際学科に転科し、ロヒンギャのことを調べました。



タイの子どもたちとの交流風景

Q 今後の進路は？

A 現場の人たちと共に働きたい

途上国の現場に行き、そこに住む人たちと一緒に課題解決に向けて汗を流したいと思っています。現地の人々の生の声を聞くことが、誰かの役に立つ仕事の一歩だと考えています。将来は国際協力に関わる機関や団体などの活動を通じて、差別や貧困に苦しむ人々の明日を救いたいです。

Q 大学院の魅力は？

A アットホームな雰囲気の中で研究

さまざまな背景をもつ先生方がいらっしやるので、多角的なもの見方が学べます。この大学院には「院生共同研究室」があり、先輩や同期と助け合いながらアットホームな雰囲気の中で研究できるのが魅力です。同期には留学生や社会人の方もいて、学生のバックグラウンドも多様です。

社会人が通いやすい制度も

当研究科には学部から進学した院生のほか、留学生や企業・自治体から派遣された院生など、さまざまな背景をもつ学生が在籍している。夜間と週末の授業実施や長期履修制度（2年間の授業料で3年間にわたり履修、課程を修了する制度）など、社会人でも通いやすい仕組みがあるのも特徴の一つだ。

選抜区分は推薦入試・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜と4種類あるため、自分にあった入試方法で挑むことができる。2024年度からは事前の小論文提出や英語のスコア提出を含む、すべての試験がオンラインで実施されるようになったため、どこからでも応募が可能だ。グローバルかつローカルな視点から研究をしたい人はぜひ挑戦してほしい。



ドーム型図書館のある緑豊かなキャンパス

新潟県立大学
大学院国際地域学研究科国際地域学専攻

キャンパスの外に飛び出そう！
外での経験が将来の糧となる



国際地域学研究科 助教
中東 友幸 先生

紛争国における国際社会による仲介について研究しています。私が紛争問題に関心を持ったきっかけは、小学生のときに起きた9.11のテロやイラク戦争。この大学で国際政治について学び、卒業後は紛争研究で有名なスウェーデンの大学院に進みました。学生には最初の授業で「大学の外に出なさい」と伝えています。学生時代に外での経験をどれだけ積んだかが、やりたいことを実現する糧になると信じています。

Info 学校情報

資料請求はこちら！



取得可能な学位 修士（国際地域学）

定員 10人

学費 入学金14万1,000円（県内者※）、28万2,000円（県内者以外の者）、授業料53万5,800円（年間）

※本人またはその配偶者もしくは1親等の親族が、入学する日の1年以上前から引き続き新潟県内に居住している（住民票がある）者。

修了生の就職先

奨学金情報

地域貢献型と国際貢献型の道に進む者、または国内外の博士課程に進む者など多様。例) 国家・地方公務員、製造業、金融、マスコミ、シンクタンク、観光業、海外の企業、国際機関など。

1、2年次生各2名に大学院独自の年間22万5,000円の給付型奨学金あり。

〒950-8680 新潟県新潟市東区海老ヶ瀬471 ☎025-270-1300

東アジアの拠点「新潟」で次代のリーダーを育てる

新潟県立大学大学院国際地域学研究科は、国際社会と地域社会が直面する課題に対し、グローバルかつ学際的な視点で貢献できる研究者や、高度な専門知識を有する実務家を育成している。

研究指導に当たる教授陣には世界各地で教育研究に携わってきた国際性豊かな人材をそろえ、少人数制教育で院生の研究を支えている。土日を含め、24時間利用可能な院生共同研究室と教員の研究室が近く、互いの交流は活発だ。「年に数回の研究発表会では研究科の全教員が出席し、指導担当でない学生にもきめ細かいアドバイスをしています」と伊藤晋研究科長は話す。

3つの学問領域で構成

本プログラムは「国際社会研究科目群」「地域国際関係研究科目群」「地域（各国）研究科目群」という3つの学問領域から成り立っている。国際社会研究科目群では、さまざまな視点から国際社会を分析するための基本的な概念、理論、政策的課題に関する授業を行う。地域国際関係研究科目群では、国家間関係の比較を通じて地域システムを分析する基礎を築く。地域（各国）研究科目群では、政治、経済、社会などの側面から、東アジア各国（日本、ロシア、中国、韓国）に関する詳細な分析に焦点を当てる。

さらに、こうした科目群を横断す